

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	南アルプス市立白根飯野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	55	60	64	51	49	50	2	13	

II 研究の概要

1 研究主題

○研究テーマ 学び合い 高め合う 子どもたち
○サブテーマ 子ども一人一人が思考力や表現力を高めるための授業のあり方

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・図画工作及び算数</p> <p>今年度、研究を進めていくにあたり、研究教科を絞っていくことにした。これは、教科を絞ることで、各学年の「学力（思考力・表現力）」や基礎・基本がより一層明らかになり、本校の「学力」や基礎・基本の系統を考える上で有効だと考えるからであった。</p> <p>表現することが容易に考えられる図画工作における思考とはどんな思考なのか、学び合い高め合う姿とはどんな場面のどんな姿なのか、思考することが授業の中心である算数における表現とは何なのか、という相反する教科を並行して研究することで、研究テーマに迫れると考えた。加えて、基礎学力向上山梨プランで図画工作を指定されていることも、図画工作を研究教科にした理由である。</p> <p>図画工作と算数だけを研究するという意味ではない。あらゆる教科や領域での「学力」や基礎・基本を考える上での手がかりとして、まずはじめに、図画工作と算数の教科でそれらを明らかにし、そこから、その他の教科や領域へ広げていくねらいがある。また、図画工作や算数を研究していく中で、常に、他の教科・領域での「学力」や基礎・基本を考えながら進めていく必要がある。加えて、他の教科や領域との関連を考えていくことも必要である。</p> <p>ブロック内授業提案では、図画工作・算数にこだわらず、他教科や領域も含めて考えてきた。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○研究テーマ 学び合い 高め合う 子どもたち</p> <p>○サブテーマ 子ども一人一人が思考力や表現力を高めるための授業のあり方</p> <p>○研究の内容・方法 ・本研究で求める子ども像 ◎自分自身の学びを実感し、よろこびを感じる子ども</p>
--------	---

- ①自ら課題をもち、経験や発想を生かしながら、意欲的に学ぶ子ども
- ②豊かに表現し、互いに学び合い、高め合う子ども
- ③学んだことを次の学習や生活に生かし、新たな課題を見つけだす子ども

・本研究で求める「学力」

自分の考えをもって、表現し、学び合い、課題解決へ向かい、新たな課題を見つけだす力

・研究の内容

(1)子どもたち一人一人の思考力・表現力（学力）を育てる授業を創造する。

- ①一人一人の子どもの考え方・感じ方や要求・願いをつかみ、評価し、授業に生かす工夫をし、子どもたちが思考力・表現力を高める授業を創造する。
- ②体験的学習や学び合う場면을重視する。一人一人が考えや自分なりの方法を表現し、練り上げ、高め合う授業を創造する。
- ③一人一人の子どもを生かすための工夫をし、個に応じたきめ細かな指導・支援の工夫をする。
- ④単元ごとの基礎・基本をはっきりさせ、それを子どもたちが無理なく獲得する単元指導計画をつくる。
- ⑤関心や意欲を高めるため、また、解決の必要性をもたせるため、実生活と結びついた課題や地域を生かした教材を開発する。またそれを生活に返す工夫を考え、子どもたちが実感し、獲得した学力が「生きて働く学力」として確かなものになるようにしていく。
- ⑥授業の中で自分の考えが生きたことを子ども自身が実感し、自己評価でき、よろこびを味わえるような授業の工夫をする。

(2)思考力・表現力を高める授業を工夫・改善し、その授業を積み重ね、教育課程を更新し、編成していく

- ①単元の重点化や教科間での関連づけを図る。
- ②単元ごとの基礎・基本を明らかにし、子どもたちの思考に沿った単元指導計画（学習計画）の中で、学んだことが「生きて働く学力」となるための年間指導計画（学習計画）を編成する。
- ③一人一人の子どもの考え方・感じ方や要求・願いをつかみ、思考力・表現力を高める授業を創造するというサイクルの学びの記録が、教育課程となる授業を積み重ねる。

・研究の方法

(1)研究仮説を設定し、仮説検証をしていく。仮説にもとづく授業提案・実践提案をし、実践の中で、仮説を具現化、検証していく。

- ①一人一学級一実践を基本とし、全体で事前・事後研究会を行うことを原則とし研究を進めていく。
- ②講師を招き、連携していく。

(2)校内での授業提案・検討や、公開研究会での授業提案により、「子どもたちが学力を向上させる」授業とはどういうものか明らかにする。

(3)お互いの授業を常時公開し合う。いつでも、どれだけの時間でも、どの教室でも授業を参観してよいということを確認し、授業を職員の話題にしていく。

(4)長期休業を利用し、互いの実践の交流会を開き、各自の授業づくりの参考とし、自分の実践を振り返り、改善していく。

(5)6年間を見据えた教育課程を編成する。今年度の教育課程を実施しながら、どのような教材を使い、どのような単元構成をし、どのような学習形態で、指導・支援の工夫をしていけば、子どもたちの学力が向上していくかを考え、授業づくりを続けていく。各学年で育てたい力を明らかにし、具体的な子どもの姿を明らかにする。この系統性を検討し、実現の方法を考えていく。

・研究仮説

仮説1…授業の創造

一人一人の子どもの実態を把握し、一人一人の子どもが考えや思いを出し合う支援をし、一人一人の子どもたちが生きる授業を仕組んでいけば、子どもたちの学習が、学び合い、お互いに高め合う授業となり、子どもたちの思考力・表現力（学力）が育つであろう。

仮説2…教育課程の編成

子どもたちの思考の流れに沿った学習計画で、各学年の各教科の単元の重点化や合成・統合をし、思考力や表現力を高めていく授業を展開していくことを積み重ねていくことができれば、それが子どもたちの学びの記録となり、よりよい教育課程を編成することができるであろう。

平成
16
年
度

○研究テーマ

学び合い 高め合う 子どもたち

○研究の見通し

今年度の研究を踏襲し、今年度の成果をさらに伸ばし、課題を克服していくことをねらいとする。研究サブテーマ、求める子ども像・学力、なども再検討し、よりはっきりしたねらいのもと研究を進めていく。

来年度も公開研究会で授業提案をしていく。

○研究の内容・方法

同じく今年度の内容・方法を踏襲していく。今年度の成果・課題より、研究仮説を再検討し、研究のねらいをはっきりさせていく。

・研究の内容

(1)子どもたち一人一人の思考力・表現力（学力）を育てる授業を創造する。

(2)思考力・表現力を高める授業を工夫・改善し、その授業を積み重ね、教育課程を更新し、編成していく。

・研究の方法

(1)研究仮説を設定し、仮説検証をしていく。

(2)校内での授業提案・検討や、公開研究会での授業提案により、「子どもたちが学力を向上させる」授業とはどういうものか明らかにする。

- (3)お互いの授業を常時公開し合う。
- (4)長期休業を利用し、互いの実践の交流会を開き、各自の授業づくりの参考とし、自分の実践を振り返り、改善していく。
- (5)6年間を見据えた教育課程を編成する。

(3)研究推進体制

○研究推進委員会

校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任，各ブロック長をもって構成する。以下のことなどを検討し，研究の推進に努める。

- ・研究推進計画の検討
- ・必要とされる原案検討
- ・全体会の補足討議

○研究推進小委員会

校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任で構成する。計画の変更や日程の調整など，急を要するものなどに対応していく。

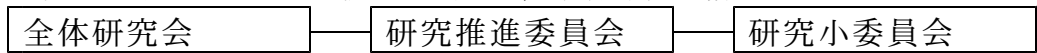
○ブロック研究

・授業づくりブロック

低・中・高の3つのブロックに分かれ，ブロックごとの子どもの発達段階に合わせたテーマや仮説をつくり研究を進めていく。

・教育課程編成ブロック

図工と算数のブロックに分かれ，教科の系統性を考えながら，授業づくりブロックで考えたテーマや仮説を検討し，教育課程を編成していく。



低学年ブロック	
1-1	篠原
1-2	小林 _由
2-1	土屋
2-2	加藤
なかよし	岡田
教務	丸山 _頼
教務	小林 _理
教務	青沼

中学年ブロック	
3-1	小沢
3-2	宮川
4-1	平賀
4-2	佐野
	金子
教務	徳江
教務	相田
教務	雨宮

高学年ブロック	
5-1	深澤
5-2	丸山
6-1	相原
6-2	飯久保
なかよし	小山
教務	横森 _枝
教務	小林 _淑
教務	三井

教育課程編成 図工ブロック		
小林 _由	土屋	小沢
平賀	深澤	飯久保
小林 _淑	横森 _枝	小林 _理

教育課程編成 算数ブロック		
篠原	加藤	宮川
佐野	金子	丸山
相原	小山	丸山 _頼
徳江	相田	

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

○今年度の研究の実績として

- ・公開研究会を行い、本校なりの研究の成果を提案でき、山梨教育の発展に微力なりとも貢献できたのではないかと。本校なりの研究の成果を県下の諸先生方に見ていただき、批判・助言・指導を受けることができた。
- ・一人一実践の原則のもと、全職員が授業提案をし、仮説にもとづく授業提案・実践提案ができ、実践の中で、仮説を具現化、検証することができた。

○その結果の成果として

- ・教師自身の子ども観、授業観が大きく変わった。
- ・子どもを学びの主体者にするという授業になりつつある。
- ・子どもたちの学びや実態を評価し、そこからの授業の創造ができてきている。
- ・「学力」のとらえ方を教師自身が深く考え、そのための授業づくり、教材研究が行われている。
- ・「学び合い高め合う」授業を創造することにより、子どもたちが授業の中での満足感をもつことができてきている。
- ・教育課程を今年度の実績をもとに再検討し、子どもたちの「学力」を育てる教育課程づくりがなされてきた。

○学習に対する子どもたちの考えのデータとして

(対象6年2組児童，7月と1月に同じ内容で調査)

(1) 学習することは大切だと思いますか

7月	とても	12人	まあまあ	13人	あまり	0人	ぜんぜん	0人
1月	とても	9人	まあまあ	14人	あまり	1人	ぜんぜん	0人

(2) 学習したことは生活や社会に出て役立つと思いますか

7月	とても	13人	まあまあ	12人	あまり	0人	ぜんぜん	0人
1月	とても	15人	まあまあ	8人	あまり	1人	ぜんぜん	0人

(3) わからないことでも自分の力で学習してみたいですか

7月	とても	3人	まあまあ	19人	あまり	3人	ぜんぜん	0人
1月	とても	4人	まあまあ	18人	あまり	2人	ぜんぜん	0人

(4) お父さんやお母さんにほめられるように学習したいですか

7月	とても	4人	まあまあ	10人	あまり	11人	ぜんぜん	0人
1月	とても	4人	まあまあ	4人	あまり	11人	ぜんぜん	5人

(5) 算数は好きですか

7月	とても	8人	まあまあ	15人	あまり	2人	ぜんぜん	0人
1月	とても	13人	まあまあ	11人	あまり	0人	ぜんぜん	0人

(6) 計算するのは好きですか

7月	とても	7人	まあまあ	12人	あまり	6人	ぜんぜん	0人
1月	とても	10人	まあまあ	10人	あまり	3人	ぜんぜん	1人

(7) 文章題を解くのは好きですか

7月	とても	5人	まあまあ	10人	あまり	10人	ぜんぜん	0人
1月	とても	6人	まあまあ	12人	あまり	5人	ぜんぜん	1人

(8) 図形の問題は好きですか

7月	とても	5人	まあまあ	14人	あまり	5人	ぜんぜん	1人
----	-----	----	------	-----	-----	----	------	----

1月 とても 1人 まあまあ 14人 あまり 6人 ぜんぜん 3人

(9) 次のような授業は好きですか

① じっと座って話を聞く授業

7月 とても 0人 まあまあ 3人 あまり 12人 ぜんぜん 10人

1月 とても 0人 まあまあ 2人 あまり 7人 ぜんぜん 15人

② 先生が問題を出し、一人が答え、また先生が問題を出し、また一人が答えと繰り返していく授業

7月 とても 0人 まあまあ 4人 あまり 20人 ぜんぜん 1人

1月 とても 0人 まあまあ 5人 あまり 9人 ぜんぜん 10人

③ プリントの計算問題などをどんどんといていく授業

7月 とても 5人 まあまあ 7人 あまり 12人 ぜんぜん 1人

1月 とても 5人 まあまあ 5人 あまり 7人 ぜんぜん 7人

④ 教科書を使ってする授業

7月 とても 0人 まあまあ 8人 あまり 14人 ぜんぜん 3人

1月 とても 0人 まあまあ 4人 あまり 15人 ぜんぜん 5人

⑤ 自分たちで司会進行をして、自分の考えを出し合い、話し合いをしたり討論をしたりする授業

7月 とても 3人 まあまあ 17人 あまり 5人 ぜんぜん 0人

1月 とても 12人 まあまあ 12人 あまり 0人 ぜんぜん 0人

⑥ 自分で調べたことをまとめたり考察したりする授業

7月 とても 11人 まあまあ 8人 あまり 6人 ぜんぜん 0人

1月 とても 9人 まあまあ 10人 あまり 4人 ぜんぜん 1人

2 今後の課題

○子どもたちの考え方・感じ方や要求・願いをどうつかみ、そこからどう授業を創造するか。

- ・成果が上がっている部分でもあるが、課題も残っている。カルテや座席表の利用など工夫をしてきているが、子ども理解が足りない面もあり、教師の構想と子どもたちの授業展開がずれていってしまっている現状もある。

○学び合いからさらに高め合い、練り上げる授業をどう創造するか。思考力・表現力を育てるための教材の開発。

- ・子どもを理解したとしても、子どもたちの意欲や関心を高め、子どもたちが解決したいと思う課題や授業のねらいにあった価値のある課題（テーマ）、実生活と結びついた教材や身近な教材、子どもたちが実際に検証できたり、手にとって感触を味わったりできる教材などを設定することができなければ、学び合い高め合う授業・思考力や表現力を育てる授業に展開していかない。特に、子どもたちに学んでほしい知識や能力、感覚などがあるときにどのような課題（テーマ）や教材を設定するかは、その授業がどうなっていくのかを大きく左右するものである。

○子どもたち自身がよろこびを感じる授業

- ・本校の研究のめざす子ども像でもあり、子どもたちの学習に対する考え方の変容をめざすために是非とも実現したい目標である。子どもたちが授業の中で自分の考えが生きたことを実感し、自己評価でき、よろこびを味わえるよ

うな授業の工夫をしていく。

○少人数での授業，TTでの授業のあり方

- ・現在3・4年生で行っている。単元により，少人数（子ども自身の希望制）で行うときとTTによる指導のときと分けて行っているが，その有効な指導の方法のあり方。

IV 学力把握のための学校としての取組

○学力を「自分の考えをもって，表現し，学び合い，課題解決へ向かい，新たな課題を見つけだす力」ととらえ，客観的に数値化するものにとらえていないため，定期的に調査を行うことをしなかった。

○一人一実践を基本とし，それぞれの実践の事後研究会に講師を招き，指導を必ず受けるようにし，中味を充実させて，仮説(学力を育てる)の検証をした。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○公開研究会を行った。

日時 2月3日(火) 13:30～17:00

場所 白根飯野小学校 1年・3年・5年・6年教室

対象 山梨県下の小中学校を対象に案内を配布した。

目的 授業提案・提案資料などにより，参加の先生方に指導・批判・助言をいただき，「子どもたちが学力を向上させる」授業とはどういうものかを協議する。

○研究紀要を作成した。公開研究会での配布と希望者への配布。

○各推進協議会などでの提案。

◇ 次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学級規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無